



第48期准看護師課程戴帽式

令和5年10月3日

令和5年10月3日（火）自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 本間1佐）は、北部方面総監部から医務官、防衛部訓練課長、人事課人事二班長のご臨席のもと、第48期准看護師課程の戴帽式を挙行了。戴帽の儀において純白の看護衣に身を包んだ23名（男性14名、女性9名）は、教務班長（茂田3佐）からナースキャップを戴いた。学生長（中野士長）指揮の下、衛生科精神を唱和し、「医療従事者として過酷で困難な状況においても、人道に基づく愛情をもって、骨肉の至情と挺身奉仕の精神に徹し、勇敢かつ沉着冷静に任務に邁進する。」と誓いを立てた。

病院長（鈴木陸将）は、「これから臨地実習が始まる。今まで学院で学んだ全てを統合し看護を行うに必要な知識、技術、態度を習得する大切な期間である。医療・看護は、かけがえのない命を守るためのものであり、安全・確実でなければならない。患者さんの思いを理解し、苦痛を少しでも軽減し回復できるように、食欲に知識・技術を高めていくと同時に、命の重さを感じる心、愛情に満ちた豊かな人間性やコミュニケーション能力も高めなければならない。患者さんを思いやる気持ちを持ち、身体と心を癒せる看護師となるために日々『ベストを尽くす』ために、何をすべきかを考え、積極的に学ぶ努力を積み重ね続けていくことが大切である。相手の気持ちを『思いやり』いかなる状況・環境においても『大切な仲間』を救う役割を胸に秘め、職務に対する透徹した使命感のもと、心身を磨き技術を身に付け、人間力の強化にも励み、知識・技術・精神面の三つの大切な要素を兼ね備えた、准看護師たる衛生救護陸曹になるために精進してもらいたい。」と訓示した。

学院長（本間1佐）は、戴帽にあたり、「学院長要望事項である『学院一丸』『日々前進』に加えて、『失敗を恐れない学びの繰り返し』『高い個人目標の設定』を要望する。看護の三要素は『知識Head』『技術Hand』『態度Heart』と言われ、医学や医療の現場が刻々と進歩していく中で、知識に裏付けられた技術を習得していく必要がある。臨地実習では、「それぞれの患者に適した看護を提供するために、看護師は、患者から見えない部分で大きな準備と努力を行っている」ことを経験する。これは、有事に備えて作戦準備を続ける陸上自衛隊にも共通することであり、一つ一つの学びの繰り返しが、失敗も含めて諸官らの今後の大きな成長の糧となる。かけがえのない実習・学びの場とするために、一日一日を大切に毎日新しいことに失敗を恐れずに挑戦して、同期の仲間とともに自らに課した高い目標の達成に向け団結し、一年半後にはここにいる全員が人としても立派に成長することを大いに期待する。」と式辞を述べた。

北部方面総監部医務官（小林1佐）からは、「あなたたちが、今まで学んできただけでは知りえなかったあらゆる出来事があなたたちに『新たな学び』をもたらし、あなたたちを強く、賢く、逞しくそしてさらなる謙虚さと、向上心をもたらしてくれる。頑張っって向き合い、そして、あらゆることに目を向け、興味や関心を持ち、常に思いやり、多くを学び取り、そして成長を重ねて、優しさと強さを兼ね備えた、理想高き、看護の道を目指して、頑張ってもらいたい。」と祝辞を賜った。

学生は、医療従事者としての使命及び責任の重さを改めて自覚し、真に役立つ准看護師たる自衛官を目指すことを誓った。



戴帽の儀（男性自衛官）



戴帽の儀（女性自衛官）



衛生科精神唱和



札幌病院長（鈴木陸将）訓示



准看護学院長（本間1佐）式辞



北部方面総監部医務官（小林1佐）祝辞